

Title	アダム・ スミスの生涯 (三)
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.4 (1922. 4) ,p.566(134)- 579(147)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220401-0134

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る。到底我等がこれ等の疾病を豫防する方法を知らないとしても、少くともこれをその初期に於いて、疾病の犠牲としない以前に、知る方法があれば、我々は大多数の患者の病勢を抑止し、個人の愉樂を向上せしめ、勞働生活を延長することが出来ること云つてゐる。(S. S. Goldwater, loc. cit.) (未完)

アダム・スミスの生涯 (三)

高橋誠一郎

十

スミスは斯く着々として改良進歩の實を擧げつゝあるグラスゴオ大學の學窓より出で、般盛なる市場に漲れる熱烈なる空氣を呼吸すると多かりき。彼れが初め學生としてグラスゴオに赴

ける時、同市は猶ほ貧弱なる小市なりき。而も彼れが教授として再び同市に來れる時、そは既に商工業隆興の氣運に向ひつゝありしなり。スミスはグラスゴオに在つて雷だに教ふる人たりしのみならず、又た學ぶ人たりしなり。時代と場所とは彼れに教ふる所極めて大なりき。彼れにして永く牛津に留まれりとせば、恐らく彼れは終に經濟學者たることなかりしなる可し。彼れにして若し其の少壯の長年月をグラスゴオに送ることなかりしならんには、彼れは決して斯くの如く、披群の經濟學者たること能はざりしなる可し。次第に濃密と爲りつゝある新興クライド河貿易の問題と、同市の剛邁にして聰明なる商人の間に這般の問題に關して日々行はれつゝある議論の裡に彼れは偉大なる經濟學者と爲りつゝあるなり。

當時クライド最大の商人の一人にして又た市

長たりしアンドルー・コックレーン (Andrew Cochrane) は一千七百四十年代に貿易の本質及び原則を研究するの目的を以て毎週一回開催の俱樂部を創設せり。是れ恐らくは世界最初の經濟協會なりしなる可し。グラスゴオに居住するに至りて後、其の一員と爲れるスミスはコックレーンと深交を締するに至り、後、「國富論」の資料を蒐集しつゝあるの時、其の教示に負ふ所あるを承認せりと云ふ。(Dr. Alexander Carlyle, Autobiography, ed. by John Hill Burton, 1860, p. 73)。

市長コックレーンを首めとしてグラスゴオ市民は貿易上の拘束撤廢を渴望せりと雖も、而もそは鐵及び亞麻絲の如き原料品の輸入に對するものなりしき。サー・ジェームズ・スチュアートも亦た近隣に居住せるが故に、恐らくは此の俱樂部の一員たりしなる可きも、彼れが赦免せら

れて大陸の流寓より歸れるはスミスがグラスゴオ大學の教職を辭する僅かに數ヶ月以前なりしを以て、主張を異にせる此の二個の經濟學者が俱樂部の集會に於て會合するの機會は蓋し存せざりしなる可し。而も恐らくスミスの意見は彼れ等市民の間に於けるよりも大學生の間に先づ傳播するに至りしものなる可し。ダグガアド・スチュアート談りて曰く、「最初熱心に彼れの主義を採用し、而して國內の此の地方に其の根本原理に關する知識を普及せしめたる者」は學生なりき。

スミスは又た一千七百五十二年、即ち彼れがグラスゴオ大學に赴任せる翌年、同志と共に「グラスゴオ學會 (Literary Society of Glasgow)」を興せり。同會は大學教授の外に學術に趣味を有する少數の商人若しくは郷紳、例へばデウィット・ヒューム、史家ダリントン、好古家ジョ

ン・カルアンダー (John Callander) 印刷業者ロバート・ノールズ、發明家ジェームス・ワット等を會員中に有せり。同學會は十一月より五月に亘り毎木曜日午後六時より集會せり。スミスは一千七百五十三年一月二十三日、同學會に於てエッセイの *Essays on Commerce* 中の二三を論評するの文を朗讀せり。 (*Notices and Documents illustrative of the Literary History of Glasgow, published by the Maitland Club, p. 132*)。是れ等の論文は恰も其の當時公にせられたる所なるが、スミスは恐らく其の出版以前に之れを閱讀せるものなる可し。蓋し、ヒュームは其の前年九月二十四日スミスに書を裁して、是れ等商業上の論文が合卷せらる可き *Essays, Moral and Political* の舊版に就きて添削す可き點をば指摘せられんことを求めたるを以てなり。 (*J. H. Burton, Life and Correspondence of*

David Hume, 1846, I p. 375) 同學會の討論は屢々激烈を極たり。最も光彩有る討論家たりしミラー教授と常識哲學の開祖リード博士との間に行はれたる形而上學的、神學的論戰は當時に在りて頗る有名なるものなりき。而て傳説は又た吾人に告げて言う、スミスは會つて或る問題に關し全會を敵として終夕奮闘し、終に多數の爲めに其の主張を破られて「論破せられたるも、論服せしめられず」 (*Convicted but not convinced*) 獨りと吐けり。 (*Strang, Clubs of Glasgow, 2nd ed. p. 314*)。

更らに陽氣なりし他の俱樂部は數學教授ロビン・シムソンの統ぶる所のものなり。「數學者は彼れ等を下界の猜忌と自負と奸計との上に高く座せしむる温順にして芽出度き特性を有す」と做すの觀念を先づスミスに與へたるものは彼れがシムソンより受けたる印象なりき。シムソン

は其の生涯の五十年の殆んど全部をグラスゴウ・カレッヂの構内に送り、一千七百六十八年、妻を失して遊び。彼れは各日を仕事と睡眠と、校門の酒亭に於ける食事と、歩數を算定せる校庭の散歩との間に正確に分てり。彼れは幾何學上の勞作を終りて後、校門の酒亭に入りて一二の教授とホイスト (一種の骨牌技) の勝負を行ひて其の日を終るの習なりき。此のさゝやかなる交遊は終に正規の俱樂部と爲り、部員は毎金曜の夕、此の酒亭に於て晚餐を共にし、土曜日毎に一哩を隔てたる、當時猶は邊鄙なる村落に過ぎざりしアンダーストーン (Anderston) に赴きて、此の地の酒亭 (changehouse) に於て常例の親子煮 (chicken-broth) の一品料理と赤葡萄酒の大盃を以て正餐を喫し、次いで卓布を撤してパンチを傾けながらホイストの勝負を行ふなり。スミスは骨牌技の相手として適當なる人物

にはあざざりき。勝負の最中に於て一つの想念が突如として其の念頭に浮びたる時、彼れはコールを行ふを廢するか、或ひ怠るの常なり。 (*Ramsay of Ochertyre, Scotland and Scotsman in Eighteenth Century, i. 468*)。ホイストの勝負終りて後、彼れ等はシムソンを中心として愉快に談笑、吟詠して其の會を終るなり。シムソンは美聲を以て希臘の短詩を今様に吟誦するの常なりき。此の集會に於て禁物と爲れる唯一の話題は宗教なりき。シムソン逝きて此の會合も亦た消滅せり。

シムソン俱樂部 (Mr. Robin Simson's Club) 若しくはアンダーストーン俱樂部と稱せられたる此の小集の如く質樸なる生活の裡に高尚なる思索に耽れる著名なる人物より成れるものは蓋し稀れなる可し。「ユークリッド」の系論を復活せしめたる大數學者シムソンを圍遶して、近代化學

の創始者ジョセフ・ブラックと蒸氣機關の發見

者たる其の青年助手ジェームズ・ワットは經濟學

の始祖と相並んで座せるなり。後年ワットはス

ミスをして特に同俱樂部の主要なる人物の一人

として擧げ、而して彼れ等の談話は「若き人々

に普通なる題目の外に、主として學問上の話題、

宗教、道德、美文學等に互れり、而して余は未だ

會つてカレツチに出席したることなく、又た其

の當時は一個の職人に過ぎざりしが故に、彼れ

等が孰れも皆な余の先輩たりし這般の問題に對

して初めて余の心を傾かしめたるものは此の會

話なりき」と談れり。(Samuel Smiles, *Lives of*

Boulton and Watt, 1865, p. 112) 彼れ等の話

題中に宗教を加へたる點に於てワットの記憶は

正しからざるが如し。即ち Trail 教授は「同俱

樂部に此の平和を破る問題を誘入せんとするの

擧は總べて嚴然且つ斷乎として制止せられた

り」と説けるを以てなり。

十一

ミスは其のグラスゴオ在任中、屢々休暇を

利してエジンバラオを訪ひ、此の地の舊友と

永く親密なる關係を持続せり。ミスは其の友

人等と共に當時蘇國に於て熾烈なりし文學上、

科學上及び社會上に於ける革新の計畫に参加せ

り。此の新運動の中心たりしものはエジンバラ

オオにして、其の社會的知識的指導者たりし人

はスミスの舊友にして又た恩人たるケームズ卿

なりき。その他、エジンバラオにはヒューム

あり、フアグソンあり、兩ダールリンブル (Sir

David of Hailes 及び *Sir John of Cousland*) あ

り、ロバートソン亦た其の同僚ジョン・ホーム

と相携へて毎週同市に來り、ギルバート・エリ

オット (Gilbert Elliot) は一千七百五十四年を以

て議會に入れるも、休會中は常に首府の消息を

齎して歸省せり。殊にスミスの愛好せる者に

Epigoniad の作者たる奇人ウイルクイ (Wilkie)

あり。彼れは數哩を隔てたる Ratho 教區の會

師たり。彼れは普通の農夫姿にて自ら其の寺領

地を耕耘するの常にして、會つて此の地を過ぎ

て、彼れを單純なる農夫と誤てる化學者ローバ

ック (Dr. Roebuck) に對ひ、セオクリトスを引用

して之れを驚愕せしめたることあり。彼れは常

に曰く、ミスはヒュームよりも遙かに大なる

獨創と構想とを有す、而してヒュームは單に勤

勉と見識とを有するに過ぎざるも、ミスは勤

勉と天才とを有すと。

尙ほスミスのエジンバラオに於ける友人中

に、會つて彼れの學生たりしウリアム・ジョン

ストーン (William Johnstone 後のサー・ウリア

ム・バルトニー、*Sir William Pulteney*) あり、今日

に傳存するスミスの書信中に一千七百五十二年

一月十九日附を以て當時商務局に奉職せるジェ

ームズ・オスワルドに彼れを紹介せる一文あり。

(*Memorials*, op. cit., p. 124) 彼れは後一千七

百九十七年に至り、英蘭銀行の正貨支拂停止に

關して行へる其の演說中に於て、ミスは「現

代を説服し、次代を支配するなる可し」と云へ

る記憶す可き言辭を引用せり。

言ふまでもなくエジンバラオに於けるスミ

スの友人中、其の第一に擧ぐ可きものはデヴィッ

ド・ヒュームなり。兩者の交際は早く一千七百

三十九年を以て始まれるの觀あるも、彼れ等が

個人的に親しく相交るに至りしはミスがグラ

スコオに定住せる後のことなる可し。ミスは

グラスゴオに移りてより間もなくヒュームと通

信を開始し、最初に用ひたる *dear sir* の敬語

は臆がて親密を表示する *my dearest friend* に

變れり。ヒュームは屢々グラスゴオにミスを

訪ふの約を爲しながら、之れを履行することなかりしも、スミスはエヅンバアロオに來る毎に、ヒュームと共に費す時間は次第に多きを加へて、終にはヒュームの家を以て彼れがエヅンバアロオに於ける本據地たらしむるに至れり。

一千七百五十二年、スミスは叛亂後ヒュームを幹事 (Secretary) として復活せるエヅンバアロオ哲學會 (Philosophical Society) の會員に擧げられたるも、同會の議事録はスミスの活動を記する所なし。而も彼れは一千七百五十四年を以て成れるシレクト・ソサィチイ (Select Society) の創立に際して重要な役割を演ぜり。同會は會つてシエームズ・オスワルドと共に佛國を旅行せる畫家アラン・ラムゼー (Allan Ramsay) によりて提案せられたるものにして、當時佛國の大都市に普く存したるアカデミイに倣ひて創設せられ、半ば時事問題の討論會たると共に、半ばは

蘇國の學問、藝術及び産業の振興を目的とせる愛國的の性質を具有せり。スミスは最初にラムゼーの相談を受けたる一人にして、一千七百五十四年五月二十三日の發起人會に於ては、曾た之れに出席せる十五名の一人なりしのみならず、提案の趣旨を説明するの任務を託せられたり。同じく是れに出席せるカーライル博士は曰く、スミスが演説の形態を以て行へる言説を聽けるは惟り此の場合のみなるも、而も余は殆んど演説家としての彼れの力を認むること能はず、彼れの音聲は鏗び、其の表明は不透明にして、吃音にすら庶幾きものありと。(Carlyle, op. cit., p. 275)。

スミスは一千七百五十四年六月十九日に開催せられたる其の第二例會の座長たりしが、次回の討論題として(一)外國新教徒の一般的歸化は不列顛に取りて有利なる可きや否や、及び(二)

穀物輸出に對する保護金は農業に對すると等しく商工業に取りても亦た有利なる可きや否やの二問題を發表せり。(Minutes of Select Society, preserved in the Advocates' Library, Edinburgh)。

其の外、貧窮、雇傭契約、限嗣相續財産、銀行業、リンネル輸出保護金、ウイスキー税、養育院、借地年限、道路修築、地代として主人に支拂はる可き土地收益の割合、地代の金納及び穀納、地代支拂の時期、大小農場の利害、奴隸労働及び自由労働の優劣、愛蘭土併合の得失等の如き幾多經濟上若しくは政治上の問題の討議せられたるを見る。同會は毎週金曜午後六時より九時に互りて開會し、創立後、幾許もなくして知名の士一百三十人を會員とするに至れり。一千七百五十五年、即ち創立の翌年、ヒュームは當時羅馬に在りしラムゼーに書を寄せて、同會は國民的關心事と爲るに至り、老若、貴賤、賢

愚、僧俗、悉く皆な其の會員たらんことを欲し、入會志望者の運動盛んなること宛も代議士選舉に譲らずと。(John Hill Burton, The Scot Abroad, 1864, II, p. 340)。

然れども協會は討論のみを以て満足せるものに非ず。同協會は年々九名の特別委員を任命して蘇國の藝術、科學、工業及び農業獎勵策を實行するの任に當らしめたり。同委員會は本會の例會より離れて別に毎月一回集會し、委員の大多數は貴族及び郷紳なりしが爲め、殆んど全く其の事務は農業上の討論のみに限られたり。而して是れ等の討論をして更らに一層有效且つ有利ならしむるが爲めに、一千七百五十六年、實地の經驗ある農民の一定數を會員に加ふるの決議を行へり。斯くの如く協會の事業の範圍を擴張するは其の發起者ラムゼーの賛成せざりし所なるが、而も其の協力者たりしスミスは奮つて

此の新計畫に参加し、其の實行に際して主要なる任務を行へり。彼れは最初此の計畫の實行を委託せられたる九名の理事中の一人には非ざりしも、而も數ヶ月後に至り、其の事業が各々五名より成る別箇の四委員會の間に分割せられたる時、スミスは是れ等の委員を選出するの目的を以て、特に任命せられたる五名より成る他の委員會の一員たると同時に、又たヒュームと共に四實行委員會の一たる美文學及び批判に關するものに其の名を連ねたり。(此の點に於てハーストはレーの所述を誤讀せるが如し。Hist. op. cit., p. 106. 參照) 同協會は十分なる寄附金の醜集を行ひ、一千七百五十五年四月十日の各新聞紙上に金銀の賞牌並びに當時としては巨額の賞金を提供して殆んど天下のあらゆる事項に對して獎勵を行ふ旨を公にせり。而して賞典の數は逐年増加し、一千七百五十九年には一百四十

六に達し、野羔皮手袋、麥稈帽子、フェルト帽子、石鹼、乾酪、蘇國産の柳より製出せらるる可き蠟燭等に至るまで各種工業の獎勵に充當せらるゝに至れり。

彗星の如くに現れたる此のシレクト・ソサイチーは燦爛たる光輝を放つこと約十年にして忽然其の姿を消せり。其の消滅は一般にチャールス・タウンズェンド (Charles Townshend) の讖刺に起因するものなりと認めらる。即ち彼れは雄辯なる會員の討論を傾聽せるも、而も此の英國人の耳は殆んど其の一語をすら了解すること能はざりき。是に於て乎、彼れは問ふて曰く、「御身等は英語を書くことを學びながら、何が故に之れを話すことを學び得ざるか」云々。(Lord Campbell, Lives of the Chancellors, vi. 32)。一千七百六十一年、トーマス・シエリダム (Thomas Sheridan) はロンドン・バカロネに來りてカマラン

アス・クロース (Carrubber's Close) なる聖ボロ會堂 (St. Paul's Chapel) に於て約三百名の紳士に對し、英語演説法の講義を十六回に亙りて行ひしが、間もなく、シレクト・ソサイチーは英語獎勵の目的を以て特殊の團體を組織し、倫敦より發音法の教師を聘せり。然も斯くの如き企圖は國民的自負を害することゝ爲り、初め新奇と愛國的情操とに由りて人心を引ける同協會は一千七百六十二年を境として、其の隆盛の頂點を越え、寄附金の申込者は其の名を撤回し、若しくは其の拂込を拒絶せるが爲めに、一千七百六十五年には僅かに六個の懸賞を行ふに足るの基金を有するに過ぎざるに至りて終に解體を見ることゝなれり。

十二

情操に發露せるものにして、擡頭しつゝある蘇國著作家の著書に對し、同情ある批評を加へて之れを獎勵するが爲めに創刊せられたる Edinburgh Review 誌の出版なり。主幹は後年、英國大法官たるに至りし當年の青年辯護士アレクザンダー・ウヰッダアバーン (Alexander Wedderburn) にしてロバートソン、ブラー、シーアズトン及びスミス等は其の寄稿家たり。(Memoirs of Lord Kames, 2nd ed., 1814, i. 233)。スミスは一千七百五十五年七月に現れたる初號にジョンソンの辭典の評論を、翌五十六年一月の第二號には A Letter to the Authors on the General State of Literature in Europe. を寄せたり。(A Catalogue on the Library of Adam Smith, ed. by James Bonar, 1894, p. xi.)。

アダム・スミスが主要なる役割を演じたる他の注意すべき計畫は前者と等しく蘇國の愛國的

「吾人は本書を取りて他の辭典と比較するの時、

其の著者の功績頗る著大なるを認む」と。在來の英語辭典は難解の言詞及び術語を説明するを以て主たる目的とせり。然るにジョンソンは其の以上に著しく彼れの企圖を擴張して、威信ある著書よりの範例を以て證明せられたる各語の種々なる意義を遺漏なく聚集せり。然れどもスミス惟へらく、著者にして其の使用を是認せられざる諸語を鑑別すること更らに多く、而して一語の種々なる意義を列擧するに止めずして、是れ等の諸意義を等級に排列し、主要なる意義を附屬的のものより區別せしならんには、一層の完成を見たるなる可しと。斯くて彼れは自己の要求する所を例示するが爲めに自ら「機智 (Wit)」及び「滑稽 (Humour)」に關する二個の項目を草せり。彼れは「滑稽」を以て常に偶發、不定のもの、性向上の疾病なりと思惟し、そは屢々機智に比して面白味大なることある可き

も、之れに比して遙かに劣等なるものと思料せり。曰く、「機智は計畫せられ、工夫せらるゝ所多く、更らに正規的且つ人爲的なるものを表明し、滑稽は一層粗野、放漫、狂妄且つ幻想的なもの、自ら支配し又たは抑制し得ざる發作によりて生じ、全然眞の慇懃と相容れざるものを表明す。滑稽は往々機智よりも面白味あるものなりと稱せられたるも、尙ほ機智の人が滑稽の人の上に在ること、恰も紳士が道化者の上に在るが如し、而も道化者は往々にして紳士よりも人を樂しましむるものなり」と。彼れは蘇國に於ては會話に際し正確なる言語の標準存せざるが故に、直ちに此の辭典の有用なることを感ぜらるゝに至る可しと思惟せり。而もジョンソンは本辭典の改版に際しスミスの批評に對して何等の注意をも拂はざりしが如し。

スミスは「エジンバアロオ評論」第二號の附録

に現れたる「編輯者に與ふるの書」に於て、彼れ等は其の紙面を滿すに、百項中の一項も之れに對して機會を與へたる著作の公表後二週間と想起せらるゝとなかる可き瑣々たる出版界目下の消息の一切を以てするよりも、寧ろ一般社會の爲めに其の注意に價する諸書の紹介を掲ぐるに よりて遙かに之れが感謝を受く可きものなるが故に、「恰も學界に地歩を占めんとするの擧に着手せるに過ぎざる」蘇國に於て出版せられたる諸書に關する記事のみに限らず、其の範圍を限定することなく、一廉の價値ある一切の蘇國出版物を掲ぐることを期すると共に、國外に於て出版せられたるものと雖も、總べて永續的價値あるものは之れを考査するを以て同誌の壽命を持續せしむる上にも有用なるものなりと主張せり。次いで彼れは現代の大陸文學評論に筆を進めたり。彼れの謂ゆる大陸文學は即ち佛蘭西文

學を指すものなり。伊太利亞は既に文學を産することなく、獨逸は單に科學のみを産せり。而も篇中に於て英佛文學の比較を行へる一二の章句を取りて觀るに、彼れは屢々非難せらるゝが如く、不當に英國文學を蔑視し、佛國文學を盲目的に讚美する者に非ざりしを知る可し。即ち彼れ曰く「想像力と天才と構想力とは英國人の長所にして、趣味と明察と適合と整頓とは佛國人の長所なるが如し。古英國詩人に於て、シエクスピア、スペンサー及びミルトンに於て、破格と放縱との裡に讀者を驚かし魅惑して、其の天才を嘆美せしめ、其の述作の不齊に對する一切の批評を以て取るに足らざる些末のものとして蔑視せしむるものある無邊、廣大にして超自然なる想像の力を認むること多し。著名なる佛國作家中に於て斯くの如き天才の閃發に遭遇することはさまで多からず。而も之れに代る

に、かの想像の強烈にして刹那の閃光の如くに
 心胸を射るものなきが故に、従つて無稽若しくは
 不自然なるものによりて判断を裏切り、又は
 は文體の著しき不齊若しくは順序の連絡なきが
 爲めに注意力を疲弊せしむるが如きこと嘗つて
 なく、而も快適にして興味あり、且つ相關聯
 せる對象を以て心を樂ましむる情操及び語法の
 均等に於て練達せる雅致と連結せる正しき排
 列、正確なる適合と恰好とに逢着するなりと。

彼れは韻文より哲學に移り、佛國のアニンク
 ロベチストは自國のデカルト (René Descartes)
 哲學の體系を棄て、英國のニーコン (Francis
 Bacon) 及びニートン (Isaac Newton) の體系に
 移り、而して彼れ等は英國人自身よりも其の體
 系の有力なる説明者たることを示しつゝあるを
 觀たり。彼れは佛國「大百科全書 (Grande Ency-
 clopédie)」に就きて長文の評論を試みたる後、

地よく、勇ましく又た洵に正當なる頌讚の辭た
 ることを附言するに止む可し」と稱して擱筆せ
 り。

スミスは理論上に於ては常に共和主義者たり
 しの觀あり、而して彼れは慥かに一切の合理的
 自由を愛するに於て共和主義者の眞精神を有し
 たり。其の學生にして又た終生の友なるプハア
 ーン伯曰く「彼れは其の政治上の原則に於て共
 和主義に幾く、統治者の世襲的繼承は單に共和
 政治が功名心若しくは相争ひつゝある黨與によ
 りて輸致せられたる絶對支配權によりて動搖せ
 しめらるゝを防止するが爲めにのみ必要なるが
 故に共和政治を以て君主國の綱領として思料せ
 り」(The Bee, June 1791.)。

ビュフォーン伯 (Comte de Buffon) 及びニーオ
 ーミイウソ (René Antoine Ferchault de Réaumur)
 の科學上の近著を紹介し、而て形而上學の著作
 中に於ては僅かに是れよりも數ヶ月以前に現れ
 たるルソー (Jean Jacques Rousseau) の有名な
 「人間不平等の起源及び根柢論」(Discours sur
 l'origine et les fondemens de l'inégalité parmi
 les hommes, 1754) に論及し、ルソーは「些末
 なる哲學的化學並びに其の文體の助けによりて
 放縱なるマンドヴィル (Bernard de Mandeville)
 の原則及び觀念をしてプラトリーの倫理學の純正
 と率直の總べてを有し、而して稍や極端に馳せ
 たる唯一の共和主義者の眞精神たるの觀あらし
 めたり」と説けり。彼れは此の書の概梗を記し、
 其の二三の代表的章句を翻譯し、而して「單に
 余はルソー氏が其の一市民たるの光榮を有
 するジュネーヴ共和國に對する献本の詞が心

新刊紹介

田中萃一郎抄譯 「民主主義批判」

四六版一四〇頁
 定價金壹圓五十錢
 竹内書店發行

婦人に對する男子の所有權を承認する者は常
 に「不貞」を云々し、財貨に對する個人の所有權
 を承認する者は往々「盜賊」と叫び、創作に對す
 る所有權を尊重する者は又た屢々「剽竊」を呼
 ぶ。對象こそ異なれ、孰れも所有權に執着する
 者の聲である。世間には財産權の廢止、若しく
 は然らざるまでも其の嚴厲なる制限を主張する
 の論者にして思想上の私有權に執着し拘泥する
 ものが甚だ多い。

田中萃一郎博士は曾つて大阪毎日新聞紙上
 (大正九年四月)に「民主的産業制」と題して英人
 マロックが一千九百十八年に公にした「純粹民
 主々義限界論」の第二第三兩編を任意に抄譯し